

授業概要

図書館員の職務につくことを前提に、コンピュータやネットワークなど、図書館業務を行う上で必要になる情報通信技術、ならびに現在図書館がおかれている高度情報化社会についての基礎的な理解を目指して講義します。

テキストを参考にしながら、実際の図書館や身の回りの事象をなるべく取り入れた進行をおこないます。

授業計画

第1回	イントロダクション
第2回	コンピュータとネットワーク — デジタルとアナログ —
第3回	コンピュータとネットワーク — コンピュータの仕組みと動作 —
第4回	コンピュータとネットワーク — ネットワークの仕組みと動作 —
第5回	コンピュータとネットワーク — デジタルによるコミュニケーション —
第6回	電子テキスト — 文書、出版、書籍 —
第7回	データベース — リレーショナルデータベース、情報検索 —
第8回	図書館システム — 概要 —
第9回	図書館システム — 各種機能 —
第10回	図書館システム — ネットワークによる情報の収集と発信 —
第11回	メタデータ — データに関するデータ —
第12回	ネットワーク情報資源 — WWW、URL、ドメインなど —
第13回	情報倫理 — 電子メール、マルウェア、ソーシャルエンジニアリングなど —
第14回	情報倫理 — 個人情報、知的財産権 —
第15回	まとめ — これからの図書館と技術発展 —
第16回	筆記試験

到達目標

図書館員の職務につくことを前提に、次のことへの理解を目指します。

1) コンピュータやLAN など基本的な情報機器の基礎、2) 図書館業務システムの概要と関連技術、3) インターネットとその図書館サービスでの利用の概要、5) 情報化社会と図書館の関係。

履修上の注意

講義中の発言を歓迎します。質問や話題提供など、積極的な参加を期待します。

司書課程科目の中では比較的独立性の高い科目内容ですが、基礎理解として「図書館概論」の履修を済ませていることが望まれます。

必要に応じて、PC教室やメディアセンターなどの学内施設を利用します。

予習・復習

事前にテキストの指定箇所を読んでおいてください。

毎回の講義でだされるアサインメントは、次回までに取り組んでおいてください。

講義中に出た新しい用語について、自ら説明ができるまで確認をしてください。

評価方法

期末テスト(60%・必須)と課題レポート(20%・必須)を主とします。それに授業への貢献(議論への積極的参加など)および自由提出のレポート(20%)を加えて評価します。

履修者数が少ない場合、進行および評価方法を代えることがあります。

テキスト

(必携) 杉本重雄編. 図書館情報技術論. 樹村房, 2014, 208p., (現代図書館情報学シリーズ, 3), ISBN 978-4-88367-203-5.

(参考) 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. 図書館情報学用語辞典. 第4版, 丸善出版, 2013, 284p., ISBN 978-4-621-08774-9.

その他授業中に印刷資料を配布します。